

# 標準と過不足

## 1)創造の背景

### 1-1 病んだ文化性

#### 1-1-1 面従腹背

アホのご機嫌を取って無難にやり過ごす。表裏の乖離した歪性  
安定した習慣と見解が落ち着き、公共機関に配置する過程があつて健全な  
権力行使に及ぶ。机上の学習と偏差値に偏り、対象を評価し、公的機関に  
配置させると、歪な自己認識、過大な評価性を抱き、外界を見下ろし、歪  
んだ発想による振る舞いに陥り、領域の歪性を拡大させる。

#### 1-1-2 習慣と性質、成長段階

自己の考えを明瞭に示し、産出と検証と改善の活動習慣を図り、表裏の整  
合する性格をもって、形式と実際の整合と健全な公的性格を稼働させる。  
あまりに未熟性の段階で公的機関に配置させることの問題性が整理される。  
人間の成長過程論について見解を必要とする。

#### 1-1-3 偏差値と教育性

表向きの愛国性を演じ、中身は非国民という売国性の態度振る舞いを進め  
る表裏の乖離した二重人格を招く事の健全性を知る。偏差値と知育性に偏  
った教育観の不良を起こす因果が整理される。

#### 1-1-4 資格制度

公務員の資格制度としての、キャリアなどという身分制を設け、一般職と  
分けて特権的な性格を与える、身分保障という仕組みは、健全な国家形成  
に作用しているか。

#### 1-1-5 動静

体裁を装飾し、考えの内実を算定する質実性への着目が弱いと表裏の乖離、  
二重人格性が作られる。産出と検証と改善の活動習慣が停滞したストック  
過剰の動態不良という性格に留まる。人の見てない所で悪しき性格を稼働  
する。裏表の激しい違いを作る。公的機関の歪な性格を作り上げる。

アナウンサー、お笑い芸人、タレント、マスコミ、  
歪な専門職、評論家、インテリ気取り、他国に被れる、自国性が乏しく、  
横文字の多用、表層の装飾、中抜き流通、ピンハネ搾取、  
世襲制、縁故採用、公務員、閉鎖性、特権性、

#### 1-1-6 基軸性、人形ロボットの育成と活用、

領域の基軸性に配置することの問題が高まる。活動と考えの安定しない人物を担ぎ、上手に利用し意図を達する人形とロボット化という制御性を行う経営、教育、政治性、文化性。

#### 1-1-7 資金提供者の性格、入手と活用

資金提供者の問題、何をやって財を得て、財を用いるか。  
盗み、詐欺、暴力性で財を得ると、用い方も歪みの激しい姿が起こる。  
人格性が不足した力の暴力性を生む。

#### 1-1-8 人格と報酬

分不相応な高額な報酬を与えることの問題性が生じる。報酬に相応する人格性の乖離の激しいギャップを作ることの弊害が浮かび上がる。

#### 1-1-9 表面の体裁

虫食い表現、露出過多、健全な産出と検証と改善の活動性の乏しい一過的衝動性の表現を多用する態度振る舞い、領域の性格や性質の歪性を広げる事に作用する。歪な生命観と文化観の形成に陥る。歪みの激しい文化性を生む。キャリアに傷がつく、表向きの体裁重視、内実の空疎性、

#### 1-1-10 利己性の激しい自由

「内心の自由」「学問の自由」「表現の自由」などという概念を強調する。  
活動習慣の歪化した思考と概念を作り、表向きの美観に嵌まり、内実の歪性を作る。表と裏で言う事やる事のギャップを広げる。利己性の激しい自由主義、

## 1-2 根本の歪性

### 1-2-1 教育の失敗

根本性の歪化した専門性、部分最適性を起こす。左翼などという概念が充てられる。空疎的理想主義、言行の乖離の激しい情緒不安、ヒステリー性、過大な自己評価、面従腹背、権力性へのご機嫌取り、物理依存の強い体質の真相、歪んだ平和主義、宗教性、教育の失敗例が表面化する。

強権的な支配を作る物理依存の激しい性格、  
詐欺性と暴力性、いずれも根本性に欠陥性が映る。

支離滅裂の言動、

民主党、公明党、自民党の左の勢力、極端な右の勢力、

東大、京大、慶応、早稲田、

国立大学、文部科学省、NHK、等々、

### 1-2-2 選挙

こうした性質に嫌気がさし選挙結果が現れる。賢明な国民が要ることの証左。一部領域の歪性を取り除く判断が下される。

### 1-3 適正な基礎性の科目を整備、健全な文化性の構築、

成長過程の適正、言行一致、概念形成上の適正、健全な活動と習慣、人間性、領域性、過程と結果性、習慣、因果性、

## 2)基礎性

### 2-1 学業研究の産出と検証、基礎科目、継続的仕組・大系

教育性において正常性と標準性の概念提起の作用が働き歪な不公平性に陥らぬ根本律が定着し歪な公共や歪な民間の過剰を予防する基礎原理の整備と現象化を促す。標準性の観念に不動性があり特殊な領域性を予防する基準と運用の程度に現れる。基礎性の科目内容の良し悪しが問われる。領域のインフラ性が構成される。理解納得共感の増す標準性の産出にあるか、結果と過程の検証と改善の仕組みを保つ。

### 2-2 根本性と基礎性と対象性と応用性、大局観

感性と概念と精神と身体の良い在り方という根本観念を土台性にして、宗教性、教育性、経済観、政治観、産業観、科学技術観、文化観という、根本且つ全体大局性の観念を生む。根本性と基礎性、具象性と準抽象性と抽象性という観点を整理し変わらぬ標準観と整合の増す運用の一貫性を増し、生と領域の正常と持続の体系と周期を存続する。時空性を超えた不動性を模索し標準性を引き出し、時々の内外環境に対面し最良の施策と構成を図り不動と変動と動静の活動を展開する大局観を産む。

### 2-3 普遍的不変の概念性

静的体系に限定されず過程と結果の因果を顧み活動法則性や成長過程の適正の見解を合わせ、静態面と動態面の標準性の概念が確立される。「生の原型性、活動法則性、創造の枠組み性、包括観、学問学術体系、成長過程論、動静観、」といった普遍的不変の概念性を産出する。これを基礎性の科目内容に備え国家と憲法などという特定の適正を作る基礎と専門の相関を生む。

### 2-4 短期中期長期、周期と体系

「局所現象、構造的、性質」という抽象観点を抽出し根本の因果と直接間接の因果の観点を持ち、短期的因果に留まらず中期や長期の因果を想定し作り上げる活動と習慣を生む。あまりに即効と偏狭の感覚が増すほどに、中期や長期の周期性の意識は喪失し物理任せの効果と利益追求と破壊性や消滅性が起こる。

## 2-5 短期過多の因果と領域、過度な自由性

適当な概念集約性が乏しく、即効と收拾不能な混乱と自由の過剰性が起こる。やったもの勝ち、食い散らかし、妙な露出狂、粗末な生、自律性を欠く詐欺性と暴力性、モラル破綻、人格喪失の生命と領域性が現れる。慢性化した生の劣化現象を常識性にした病理質の領域性を齎せる。虫けらのようなタレント、経営者、政治屋、教育者、宗教者、マスコミが量産される。一部の特定対象や人物を異様に悪者に仕立てて攻撃する様子も短期効果性の強まる短絡の弊害が生まれる。生の歪化した現象を認識する。

## 3)構造的性

### 3-1 制度性・流通性

制度性を伺う観点に、資源流通の構造が浮かび上がる。

設計開発、製造、

流通（商品サービス、人材、金融、情報、知識、概念、見識）

### 3-2 問題性

流通性に大きな力が起こり、製造と設計開発を支配する因果性が増す。

情報操作が高まり、実際にはない事柄も言葉や概念と情報を作り訴求し実際化させる向きの創造が高める。虚構的、扇動的、洗脳的な発想と思慮と作為性の過剰は生命と根本性の歪性を観測評価する。今日的な問題としてクローズアップされる。

### 3-3 対策

意図する概念性を事前的に明示し資源流通の基準と制御を求める作為が増し、破壊性や暴力性に箍を嵌めた持続的な管理と運用の仕組が構成される。小細工悪知恵、技能性と知識性の歪な活用を図る生命人間の歪性を伝える。身元を隠し遠隔で対象を操作する根本の壊れた病理性の生命力が広がることの問題と対策が生まれる。

### 3-4 根本性の問題

スパイ、売国、拝金主義、無機質性、言葉概念の喪失、幼児虐待、一方向性の道具視の過剰、消費性の高まり、育成願望の喪失、無思慮無思考、人形化・ロボット化、過度の効率、生滅の歪性、生の劣化破綻、リスクをとらずにリターンを得る。根本性の崩壊、製造と販売、資本と経営の分離、製造責任と活用の統制を減退、根本の壊れ、即効、急進、画一、断片、

### 3-5 負の循環性

見識性を欠く、情報流通、教育性、政治性の進行、粗末なタレント、芸能という類の多用、広告宣伝、露出性、食い散らかしの表現、横取り、ピンハネ中抜き、劣化性の強まるマスコミ、公共放送、

### 3-6 資金提供

これらを作る資金提供者、何をやって財を得たか？盗みや略奪性による資金入手は、資金の活用に問題性を広げる。盗み、略奪、詐欺を指示し金を配り、対象を攻撃する様子が生まれる。経済行為という真相から外れた競争性やテロ性の行為をもって、財や生の成長を企てる病理性への対策が要る。歪な負の循環性を齎せる。

### 3-7 概念見識性

国家の利益喪失というより生命人間の利益を損なう観点を生む。根本性と基礎性と全体大局観という概念や見識の適正を求め表す態度が生まれる。根本且つ包括性の対策が求められる。

## 4) 構造的な分析

### 4-1 価値体系

やったら返ってくるエネルギー投入とリターンの因果に健全な活動と生産が生まれる。実質的平等の理性が働き、生の健全と持続の領域性を遂げる。公務員よりも民間で働きたいとするのはこうした根本律を基底にもって、生の正常を求める態度に映る。健全な気力と身体の相関に健康な人間を生む。社会主義や自由主義の概念を産む前段性の因果に映り価値や理念、祈願の基本構成に至る。

### 4-2 構造的な矛盾

良好性を求め力を投じても決まった報酬で見返りに反映されないならば、余計な事はせずに周囲との波長を合わせ難くやり過ごす発想と判断が進む。このような面から根本律の歪化する構造的な問題が蓄積される。いつの間にか変わりづらい性質や体質に固まる。

### 4-3 健全性と不動性、統合と分散の因果

領域の正常と健全と持続を求め、根本性の適正を遂げたいとする創造力が生まれる。そもそもあるべき人間の性質とは、生命とはという根源性の問いが起り、不動性の標準観が形成され現況に直面し歪性の観測と過不足の評価に連ね、不快や好感に直面し維持や是正の思考と作為を投じる。産出と検証を通し、資源分配に満足や不満足が生じ満足が増せば再生産と持続の領域性を維持し、不満が高まると再生産への意欲は減退し領域から離れて別の領域に映り満足が得られるように分散の力が働き再生産と統合に向かうか、分散の判断と行為が進むか。健全性を不動性にして生命と領域の正常を保つ因果が作動する。

### 4-4 負の性質と広がり

不満性のまま、歪な体質の領域にやる気がないまま留まり、不満のはけ口を外部領域に充てる負の因果を作る。構造的な力の強さがあり外界の利益よりも自領域の利益追求に発想が定常化し内部の不満を外部に押し付ける。内部の抗争に大半の意識がとられ、外部の利益を追求する領域性は減退する。慢性化した病理性の構造が治らず、直接間接に領域全体性に派生する。

#### 4-5 成長過程論

領域の萌芽期から成長期・安定期を経て衰退性の局面に起こる問題の傾向が抑えられる。市場の反応が健全に作用し歪な領域の存続が難しい状況に及び、健全な自浄性の因果が回り歪性の改善に力が回る。外界への利益を作り存続できる根本律が稼働する。

外界から生や財を奪い存続する性格に留まるか。外界への利益性を作り再生産と持続の相関を保つか。生命人間の健康健全の観点が不動性にあり、歪性の正圧力が生じ、正常を保とうとする自然性の因果を見る。犯罪性の現象を淡々と取り締まる作用が働き歪性を取り除き、正常や健全を不動にした理念と実現の体系と周期の持続する領域性を生む。

#### 4-6 習慣と秩序と性質、概念性と定常化

犯罪性をもって富を得る領域性を広げるか。健全な生命と人間性を不動性にして、エネルギーを起こし好循環する領域を存続するか。根本的な性質と志向の異同が生まれる。あるべき生命人間性について思慮が重なり言葉や概念を形成し定常的に記録掲示し不動性の理念と習慣を作る方法が進む。確たる不動と標準観の安定した見方に定着し、常識や秩序性を実質化する。

#### 4-7 工程分け・因果の分析

概念形成上に適正が有るか、概念と運用上の適正、現象と流通上の適正、資源分配上の適正という各面の分化と分析がなされて、正常性に働きかける具体の作為に回る。生の健全と持続の原理性が作動する。

#### 4-8 一様性と様々な想定、一般法則と個別性

民間といっても性格は様々であり、独裁性の強い不公平性にあるか。公共機関にいた方がマシなどという判断もあり得る。アホのご機嫌をとって難なく過ごす態度が作られる。

## 5)大局性

### 5-1 構造的な適正

局所的な現象に対し需給の安定した資源流通という構造上の適正を求める思考と態度が生まれる。「商品、人材、金融、情報」という資源流通、「知識と概念と見識」という産物も資源性に配置し資源流通一般の適正を遂げる思慮を重ねて構造的制度上の安定した運用を図る具体策が生まれる。

- ・局所的技能性の向上という要素、
- ・制度的な適正と安定性という構造的な仕組み要素、
- ・これらを引き出す基礎土台性、
- ・これらを総合する生命と人間と性質上の適正観と標準観念、

局所性と構造性と性質、短期性と中期性と長期性という三層の観点を生む。総合性に文化なる概念を充てる。分化と総合の周期と体系と持続性。

- ・科学技術、産業性、
- ・政治性、
- ・教育観、
- ・経済観、
- ・文化観、

### 5-2 基礎性、標準性と過不足性

組織性と制度性の力が強く領域を異様に縛り固定化する事に及ばぬか、特定の利益追求の性格が強まり全体性の利益を損なう結果に及ばぬか。一部の利益と全体の利益の適正を問い操作と制御の大局観を生む。標準性の観念と画一と多様、急進や漸進等の評価性の観点を備え動静の適正を作る実際工程に回る。分散過多、統合過多、

### 5-3 根本且つ全体大局、抽象原理、因果の総体集約・思想世界観活動

「思想性と活動性と世界観」「体系と周期と持続」「根源と根幹と産出」  
「静態と動態と動静」「神仏と人間」という抽象観と原理性を生む。

根本の観点、基礎性の観点、具象の観点、準抽象の観点、抽象の観点、直接間接、基礎根本の因果、大枠性の観念が概ね揃い部分の性格や配置、長短を掴み、自立と協業の社会と生態性を生む体系と周期の持続に及ぶ。

#### 5-4 標準と過不足

対象の評価性には、基準尺度の構築を前段性に必要とする。標準性の観念を整え過不足の観点を特定し、自律的な創造性を投じる。健全な感性は思考と概念領域観を導出し精神性と身体性を繋げる主体性と領域性を生む。意味内容の理解や納得、共感の増す表現力が生まれる。現代、今日の歪性には、食い散らかしの評論が見につく。生の荒れた性質が表面化する。健全な基礎性の科目を整える事が有用に思われます。

なし崩し的、制御不能、籠の利かない暴走性、自律性の喪失、慢性化した犯罪性、生の狂い、劣化、破綻性、安直な良し悪しと評価性、一方向性の欲望過多、標準観念の導出と過不足性、根本と基礎と柱と全体大局性、縦横の整合。動静の適正、局所性の問題というよりも、構造的な問題が大きい、小手先性の作為には限界が早い、根本性から包括的な対策が要る。

